

高梁の文化財⑧

重要伝統的建造物群保存地区

吹屋の町並み

「真金吹く吉備」と古歌に詠まれた岡山県は鉄の産地として知られていますが、銅もまた古くから採掘されてきました。製錬所を意味する「吹屋」もそうして開かれた町の一つで



赤い屋根瓦で葺かれた家並み

す。江戸時代に入ると、たたら製鉄で栄えた東城（現広島県庄原市）と、高瀬舟が行きかう成羽とを結ぶ吹屋往来が整備され、吹屋はその宿駅として大いににぎわいました。

さて、島木川沿いに開かれた下谷地区は吹屋の玄関口にあたります。かつては吉岡銅山を経営していた大塚家が居を構えていましたが、現在は最後まで弁柄業を営んだ田村家のほか、本教寺や延命寺などが深い木立ちに囲まれて閑静なたたずまいを見せています。ここから吉岡銅山の勘場（現吹屋小学校）へ通じる道筋には、銅山で働く人々の住宅が立ち並び、たいへんなにぎわいを見せていました。が、明治二十六年（一八九三）に銅山本部が坂本へ移されると町並みはさびれ、今では草木に覆われて往時の繁栄ぶりをしのぶことはできません。

吹屋往来をたどって緩やかな坂道を上って行くと、赤い屋根瓦と弁柄格子で彩られた町並みが見えてきます。かつては、下町地区から中町地区にかけて商家が軒を連ね、この町並みの中核をなしていました。ことに片山家や長尾家といった弁柄豪商たちが住まう中町地区では、往来に高い棟筋を向け、一階のみならず二階にも大きな弁柄格子を飾る家々が多く見られます。江戸時代、往来に面した家々では通りを見下ろすことのないよう二階の高さが低く抑えられ、また表を弁柄で彩ること



往来に棟筋を向けた建物

も許されていませんでした。ところが、明治時代に入ってそうした規制がなくなると、吹屋の人々は弁柄商い等を通じて蓄えた財力を背景に、二階に座敷を構えた棟の高い住宅を競って建設し、表を赤い弁柄格子で飾り立てていったのです。あたかも自由な時代の到来を謳歌するかのようです。

しかし、こうした建物も長年の風雪にさらされて往時の美しさを失っていましたが、昭和五二年、全国で八番目となる重要伝統的建造物群保存地区に選定されたのを契機に町並みの整備がはじまり、次第にかつての姿を取り戻しつつあります。

（文・社会教育課文化係長 亀山行雄）

編集と発行(毎月15日発行) 高梁市総務部企画課

〒716-8501 岡山県高梁市松原通2043 電話0866(21)0210 ホームページアドレス <http://www.city.takahashi.okayama.jp/>



この印刷の一部には水質保全に有効な水なし印刷方式を採用しています。



環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。